

—諸人のここに学びて— 校長室から見える風景(8)

沖縄にて 修学旅行、青春の4日間

明日から7月というのに、少し時間を巻き戻します。6月17日から20日まで2学年が修学旅行を実施しました。行先は沖縄です。修学旅行といえば高校生活最大のイベントです。まさにその通りの充実した時間となりました。

修学旅行のしおりの巻頭言「日常と非日常」に込めた思いが2つあります。まずは、沖縄の地を訪問することで歴史の一端に触れ、「平和」についてそれぞれに何かを感じてほしいということ。もう一つは修学旅行という「非日常」を楽しみ学んでほしいということです。沖縄の文化や生活をじかに感じてもらいたい。そしてなんといっても修学旅行、200人近い集団で旅行することなどこれからそうないでしょう。それが「日常」の安心や大切さを改めて実感することになると思うのです。

一日目、伊丹空港から沖縄、那覇空港へ。この日は大宜味村、東村を中心とした民家さんでの民泊です。民泊に少々不安のある生徒もいたようですが、あたたかく迎えていただきました。二日目は昼食まで民家さんにお世話になりました。その後、マリンスポーツやクラフト体験をし、夜はクラスごとの出し物をするレクで大盛り上がり。高校生の熱気たるやすごいものがありました。三日目は、美ら海水族館から、歴史平和学習等のさまざまなプログラムに分かれていきました。夜は、サプライズで(生徒にはこの時間が体験学習の発表会ということで伝わっていました!)琉球舞踊をはじめとするライブを楽しみました。最終日は国際通りを中心とする班別研修から、班ごとに那覇空港へ。その後伊丹空港から帰路につきました。

このような諸活動はいうまでもなく、合間の移動のバスの中、食事の時間、家族へのおみやげを選ぶ時間など、様々な時間で生徒は明るくはじけるような笑顔を見せていました。どの時間も生徒にとって、楽しむことができ、学ぶものがあつたと思います。飛行機に乗るのが初めてという生徒もいました。それもまた大事な経験。高校生のみずみずしい感性が吸収したことはこれからの学校生活に生きるものとなるでしょう。さらにこの先の長い人生においても大きな経験の一つとなってほしいと願います。

天候に恵まれ、各活動を無事に終えることができました。修学旅行の実施にあたり、保護者のみなさまには大変お世話になりました。ありがとうございました。また、添乗員のみなさまはじめ関係各所のみなさまにも大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。

追伸

先週、ある2年生の保護者の方から、「修学旅行がすごく楽しかったみたいです。ありがとうございました。」と声をかけていただきました。こちらこそ、ありがとうございました!